

資源管理基礎調査（海洋環境）

沿岸定線観測

（要約）

清藤 真樹・小泉 広明

目 的

青森県日本海の沿岸域における海況情報を収集し、得られた情報を漁業者等に提供する。

材料と方法

青森県の日本海沿岸定線観測を7月と1月を除く各月1回実施し、対馬暖流（日本海）の流勢指標を平年（1963～2011年平均値）と比較した。また、収集・分析した情報は、ウオダス漁海況速報や水産総合研究所のホームページを通じ情報提供を行った。

結 果

青森県日本海沖における対馬暖流の勢力は3月から6月は平年並み、8月はやや弱勢、9月はかなり強勢、10月はかなり弱勢、11月は平年並み、12月はやや強勢で推移した。

0m最高水温は9月から11月がはなはだ高め、6月がかなり高めであった以外は、やや低めからやや高めに推移した。50m層最高水温は11月がはなはだ高めであった以外は、かなり低めからかなり高めに推移した。100m層最高水温は9月と11月がかなり高めであった以外は、かなり低めからやや高めに推移した。

100m層5℃等温線の沿岸からの位置で対馬暖流の流幅をみると、舳作線では12月がはなはだ広めであった以外は、かなり狭めからやや広めに推移した。十三線では5月、8月、9月がはなはだ狭めであった以外は、かなり狭めからやや広めで推移した。

対馬暖流の水塊深度を7℃等温線の最深度でみると、8月がはなはだ浅めであった以外は、やや浅めからかなり深めで推移した。また、北上流量について水深300m層を無流量とした地衡流量でみると、8月ははなはだ少なめであった以外は、かなり少なめからかなり多めに推移した。

対馬暖流流勢指標（平均偏差比）

観測項目	2月	3月	4月	5月	6月	8月	9月	10月	11月	12月	
各層最高水温	0m	-71	-32	-50	+78	+144	-77	+228	+375	+221	+112
	50m	-146	-24	+4	+27	+14	-192	+137	+134	+227	+148
	100m	-144	-53	+26	-8	-12	-152	+153	+54	+122	+108
流幅	舳作線	+20	-53	-89	+4	-35	+11	+67	-16	-145	+232
	十三線	+11	-96	-88	-231	-169	-260	-238	-24	+128	-132
水塊深度	+92	-15	+156	+88	+33	-198	-71	-36	-44	+44	
北上流量	+141	+29	+137	+107	+28	-134	+93	-28	-61	-195	

階級	階級平年比の範囲
平年並み	±60%以内
やや	±130%以内
かなり	±200%以内
はなはだ	±200%以上

発表誌：平成24年度漁海況予報関係事業結果報告書（青森県資源管理基礎調査） 平成25年7月

平成24年度定線観測結果表 平成25年7月